

完了報告書

日本財団 担当者様

報告日付:2022年3月31日

事業ID:2020557724

事業名:「子ども第三の居場所」への助成・運営支援

団体名:(公財)長野県みらい基金

担当者名:高橋 潤

事業の実施状況

長野県みらい基金伴走支援

■特定非営利活動法人 にっこりひろば

【打ち合わせ】

日 時 : 6月3日 (木)

場 所 : にっこりひろば

参加者 : にっこりひろば 岡宮代表

長野県みらい基金 高橋 小松

内 容 :

1. 今年度について

①事業計画

- ・6月 日本財団の協力により、ソニー小学校放課後プログラミングワークショップ開催 (オンライン)
- ・沖縄研修について

②現状・次年度に向けての対策

- ・お惣菜販売実施PR用のぼり旗を早急に作成
- ・トワイライトスティの打ち合わせ継続中
- ・中間教室の役割を担い、にっこりひろばに来ると出席扱いになっている。
- ・国、市からの助成金検討
- ・三本柳小学校の教頭先生と連携がとれ、情報共有ができています。

③現地支援チーム会議など

- ・7月～8月 内容検討

2. タブレット研修

日本財団とZOOM研修

○長野市役所訪問

- ・こども未来部 花立次長 ・こども未来部 柳澤課長補佐
- ・子育て支援課 河西課長補佐

①について 説明と協力をお願いをしたところ、全面的に協力する。

②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席のお願い

③第三の居場所コミュニティモデルについて

(高橋)

- ・日本財団コミュニティモデルの申請について、役割のすみ分けを提案する。
長野市でコミュニティモデルの情報提供を行う→長野市とみらい基金で説明会を実施→日本財団とみらい基金で審査、決定、公表

(花立次長)

- ・コミュニティモデルでは市町村の承諾書が必須であるが、全て承諾するわけにもいかず前回大変困った
- ・役割のすみ分けはとてもありがたい提案である。こちらからもぜひ協力してほしいと思っている。

(河西課長)

- ・今年にっこりひろばで、相談事業を5回計画している。1回目は相談者がいなく中止であったが、日程を変えて5回支援させていただく予定。
- ・トワイライトスティ事業についても相談しながら進めさせてもらっている。

○長野地域振興局

- ・総務管理課 宮崎課長補佐 ・町田さん

①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い

②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席のお願い

【現地支援チーム会議】

日 時 : 8月10日 (火) 13:30~15:30

場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びにっこりひろば

参加者 : 現地支援チーム 26名

内 容 : 長野地域現地支援チーム会議

(1) 研修 (13:40-14:40) (60分)

講師: 近藤博子氏 気まぐれ八百屋 だんだん 店主
演題: 「地域でつくる第三の居場所」

(2) 2021年度進捗報告

特定非営利活動法人にっこりひろば 代表 岡宮 真理

(3) 助成終了後の基盤強化について

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 高橋 潤
・マンスリーサポート ・ファンドレイジング個別研修

(4) 意見交換 (15:10-15:25) (15分)

- ・三本柳小学校の連携が強化されている。また長野市の事業を共同で実施 (トワイライトスティ) などできている。ぜひ長野市でも他地域での居場所開設を期待したい。
- ・居場所を運営するには資金が必要なことも重々わかる。自治会でも協力できるよう検討する。

【現地支援チーム会議】

日 時 : 令和4年2月22日 (火) 13:30~15:00

場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びにっこりひろば

参加者： 現地支援チーム 19名

内 容： 長野地域現地支援チーム会議 最終回

- (1) 3年間の総括
- (2) 4年目からの目指す姿
- (3) 出口戦略について
- (4) 意見交換
- (5) その他

(3年間の総括)

成果

・月曜日から土曜日の朝から夜まで開けることができた=居場所として理想としていた姿
地域の高齢者が集える場所、子育て中の保護者が交流できる場所、小・中学生が安心して過ごせる場所となっている。

・NPO法人となり、行政と学校との連携が深まった。教育委員会や子育て支援課を通し、地域で活動する団体との横のつながりもさらに増え、またスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携も増えて心強いと感じている。等

できなかったこと

・居場所として地域に認められてきたが、その反面活動内容の周知などまだまだと思うところも多い
・自立のための自主事業（惣菜販売等）は販路の確保が難しく、活動資金の柱となるまでには成長していない。宣伝等周知の課題含め、この問題は4年目へと持ち越すことになった。等

■特定非営利活動法人 まちの縁側なから

【打ち合わせ】

日 時： 6月4日（金）

場 所： まちの縁側なから

参加者： 斉藤代表 小林理事

長野県みらい基金 高橋 小松

内 容：

1. 今年度について

①事業計画

- ・沖縄研修について
- ・畑 薬草について

②現状・次年度に向けての対策

- ・マンスリーサポートの打ち合わせ 企業や関係者リストを作成
- ・国、市からの助成金検討
- ・御代田町と情報共有ができています。

③現地支援チーム会議など

- ・7月～8月 内容検討

2. タブレット研修

日本財団とZOOM研修

○御代田町役場訪問

・教育委員会 小平係長

- ①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い
- ②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い
- ③第三の居場所コミュニティモデルについて 説明

(小平係長)

- ・ふるさと納税の一部は「なからに」支援している。
- ・マンスリーサポートの仕組みが、他の団体の支援にも使えるのはよいと思う。
- ・町長、教育長も協力的なので、引き続き積極的に関わっていきたい。

○佐久地域振興局

・高橋局長 塩川副局長

- ①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い
- ②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い

【現地支援チーム会議】

日 時 : 8月12日 (木) 13:30～15:30

場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びまちの縁側なから

参加者 : 現地支援チーム 26名

内 容 : 佐久地域現地支援チーム会議

(1) 研修 (13:40-14:40) (60分)

講師 : 木村千里氏 東京都立大学健康福祉学部看護学准教授

演題 : 「地域でつくる第三の居場所」

(2) 2021年度進捗報告

特定非営利活動法人まちの縁側なから 理事長 齋藤 百合子

(3) 助成終了後の基盤強化について

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 高橋 潤

・マンスリーサポート ・ファンドレイジング個別研修

(4) 意見交換 (15:10-15:25) (15分)

【運営委員会出席】

日 時 : 9月11日 (土)

場 所 : まちの縁側なから

参加者 : 齊藤代表 小林理事 田中理事 他運営委員3名

長野県みらい基金 高橋

内 容 :

1. 今年度について

①事業の進捗報告

②今後の運営について

第三の居場所の方向の確認

原点に戻って見直してみる

【運営委員会出席】

日 時 : 10月7日 (木)

場 所 : まちの縁側なから

参加者 : 齊藤代表 田中理事 他運営委員3名

長野県みらい基金 高橋

内 容 :

1. 町との連携について

- ①教育委員会小平係長へ支援の必要な子どもたちへの情報提供のお願いを再度行う
 - ②企画振興課、福祉へ挨拶
2. なからを可能なかぎり毎日開けて、必要なこどもへ支援を行う
- ①町、社協、学校へ再度情報提供をする

【現地支援チーム会議】

日 時 : 令和4年2月24日(木) 13:30~15:00

場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びまちの縁側なから

参加者 : 現地支援チーム 24名

内 容 : 佐久地域現地支援チーム会議 最終回

- (1) 3年間の総括
- (2) 4年目からの目指す姿
- (3) 事業継続への支援について
- (4) 意見交換
- (5) その他

(3年間の総括)

成果

- ・コロナ禍の中でも、子ども達もスタッフも元気でこれまで通りの活動が出来た。(ただし、参加総数は大幅に減少)
- ・高校生・大学生ボランティアなど、より多くの個人や団体と繋がる事が出来た。
- ・子どもの相談支援で大きな成果がでた。(薬を飲まずに落ち着けるようになった。・いじめにあわなくなった。友達と楽しく会話出来るようになった。自分に合った進路に変更した)
- ・タイのコミュニティとの繋がりが強まり、互いに必要な関係になった。
- ・野菜を中心にたくさんの食材を提供頂き、提供者とも良い関係が築けた。
- ・マンスリーサポート等寄付をして下さる企業や個人と新たな繋がりが増えた。
- ・3年目にやっと日本語教室を開く事が出来た。
- ・畑作にメンバーが集まり、本格的に始動する事が出来

できなかったこと

- ・科目別教室を開く事が出来なかった。
- ・日本語教室に子どもをつなげることが出来なかった。
- ・不登校の子ども達の昼間の居場所として利用してもらう事が出来なかった。
- ・軽井沢ガストロノミープロジェクトから依頼されたソーメン南瓜の出来具合が十分でなかった。(代金の半分は寄付として頂いた)

■特定非営利活動法人 末広プロジェクト

【打ち合わせ】

日 時 : 5月25日(火)

場 所 : ゆめひろ

参加者 : 石城代表 宮澤理事 井出理事
長野県みらい基金 高橋 小松

内 容 :

1. 今年度について

①事業計画

- ・沖縄研修について

②現状・次年度に向けての対策

- ・マンスリーサポートの打ち合わせ
- ・国、市からの助成金検討
- ・諏訪市との連携

③現地支援チーム会議など

- ・7月～8月 内容検討

2. タブレット研修

日本財団とZOOM研修

○諏訪市役所訪問

- ・健康福祉部こども課 柿澤課長 唐木田係長

①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い

②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い

③第三の居場所コミュニティモデルについて 説明

(唐木田係長)

- ・国から市に助成する資金はあるが、短期の資金なので、自立に向けての自主財源は団体でしっかり計画を立ててほしい。そのうえで難しい部分は市からの協力を考えたい。

○諏訪地域振興局地域振興局

- ・早川副局長 総務管理課河西係長 ・中村さん

①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い

②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い

(河西係長)

- ・資金を作っていく事は難しいが、末広プロジェクトが自立できるよう協力したい。

【現地支援チーム会議】

日時：8月3日(火) 13:30～15:30

場所：ZOOMによるオンライン会議及びゆめひろ

参加者：現地支援チーム25名

内容：諏訪地域現地支援チーム会議

(1) 研修 (13:40-14:40) (60分)

講師：清水康之氏 NPO法人ライフリンク創設代表

演題：「子どもの自殺の現状と対策の課題」

(2) 2021年度進捗報告

特定非営利活動法人末広プロジェクト 代表 石城 正志

(3) 助成終了後の基盤強化について

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 高橋 潤

・マンスリーサポート ・ファンドレイジング個別研修

(4) 意見交換 (15:10-15:25) (15分)

【諏訪市長訪問】

日 時 : 9月30日 (木) 13:00~13:30

場 所 : 諏訪市

参加者 : 末広 石城 田中
みらい基金 高橋

内 容 : 末広プロジェクト事業報告
次年度自立計画説明と協力依頼 (マンスリーサポート)

【半期会計事業確認】

日 時 : 9月30日 (木) 13:00~17:00

場 所 : ゆめひろ

参加者 : 末広 宮澤 藤森
みらい基金 高橋 小松 宮坂

内 容 : 4月~9月 会計書帳簿確認・後半事業打ち合わせ
マンスリーサポート推進打ち合わせ

【現地支援チーム会議】

日 時 : 令和4年3月1日 (火) 13:30~15:00

場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びゆめひろ

参加者 : 現地支援チーム24名

内 容 : 諏訪地域現地支援チーム会議 最終回

- (1) 3年間の総括
- (2) 4年目からの目指す姿
- (3) 事業継続への支援について
- (4) 意見交換
- (5) その他

(3年間の総括)

成果

- ・学習支援を継続し、また多様な機会の提供もできた
- ・子どもたちの遊びや、遊びを通じた多世代交流の機会を定期的に提供できた
- ・様々な活動をマスコミが取り上げてくれ居場所としての認知度が高まった
- ・学習支援やイベントを通じて繰り返し参加してくれる児童・生徒、またその保護者との関係を深めることが出来た
- ・居場所の維持管理、食堂経営を担う正規雇用スタッフがいなくなったあと、利用者のなかからスタッフやお当番としての活動を担ってくれる方が現れ、みんなで作る居場所となった
- ・上記のような流れのなかで、「ゆめひろ」をかけがえのない大切な場所と思ってくれる、子ども、保護者、高齢者などが生まれ、コロナ禍で様々な制約があるなか、交流もはじまった

できなかったこと

- ・最も身近な存在であるべき地元小中学校、地元商店街、地元住民の皆さんとの関係が思うように深まらなかった。

- ・「多世代のための居場所」であることを活かした多世代交流を思うように進められなかった
- ・助成金終了後も居場所を維持管理していくに足る収益の見通しを立てることが出来なかった
- ・活動を通じて、理解者・協力者の輪を広げること、特に若い世代の担い手を育成することができなかった。

■特定非営利活動法人 Hug

【打ち合わせ】

日 時 : 6月1日 (火)

場 所 : Hug

参加者 : 篠田代表

長野県みらい基金 高橋 小松

内 容 :

1. 今年度について

①事業計画

- ・沖縄研修について

②現状・次年度に向けての対策

- ・マンスリーサポートの打ち合わせ
- ・国、市からの助成金検討
- ・松川町との連携

(篠田さん)

- ・竹村さんから全面的にバックアップをするので、中間教室を有料にしたり、カフェ等で稼ぐことを考えて、今までのサポートの質が落ちないようにしてほしいと申し出があったが、自分の人件費は学習支援で収入を得たい。有償ボランティア (1回1,000円) の謝礼はお弁当とカフェで賄っていきたいと考えている。

③現地支援チーム会議など

- ・7月～8月 内容検討

2. タブレット研修

日本財団とZOOM研修

○竹村工業(株)訪問 竹村顧問 自立後の相談 マンスリーサポート説明

- ・現在家賃、光熱費を負担していただいている。それ以外で、概ね300万円の予算が必要になると試算している。100万は自分たちで生み出す (カフェ、学習支援、弁当配布)、100万はマンスリーサポートや会費収入 100万円は国や町の助成金を考えている。

(竹村顧問)

- ・資金を生み出すことは大変なことで、そこに注力してしまうと団体の力が亡くなってしまうのではないかと心配している。いままでどおりのサポートをし、継続してほしい。そのため資金 (月25万円位) は出す準備がある。困っている子どもたちを支援しているのに、子どもたちに資金を負担させることはやめてほしい。小中学校は義務教育なので、学校に通っている子どもと同じようお金の心配がないように事業の継続をお願いしたい。

○松川町訪問

・教育委員会 小平教育長 下井課長 ・保健福祉課 加山課長

- ①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い
- ②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い
- ③第三の居場所コミュニティモデルについて 説明

(小平教育長)

- ・松川ではもう1つ居場所ができると町としても環境が整う。必要な事業であると思っている。
- ・マンスリーサポートの仕組みを使っていくのはよいことだと思う。

○南信州地域振興局地域振興局

・福島さん

- ①マンスリーサポートについて 説明と協力をお願い
- ②現地支援チーム会議について 7月～8月に予定 出席をお願い

【現地支援チーム会議】

日 時 : 8月6日 (金) 13:30～15:30
場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びHug
参加者 : 現地支援チーム 27名

内 容 : 南信州地域現地支援チーム会議

- (1) 研修 (13:40-14:40) (60分)
講師: 川辺康子氏 西成チャイルド・ケア・センター代表理事
演題: 「地域でつくる第三の居場所」
- (2) 2021年度進捗報告
特定非営利活動法人Hug 理事長 篠田 阿依
- (3) 助成終了後の基盤強化について
公益財団法人長野県みらい基金 理事長 高橋 潤
・マンスリーサポート ・ファンドレイジング個別研修
- (4) 意見交換 (15:10-15:25) (15分)

【現地支援チーム会議】

日 時 : 令和4年2月28日 (月) 13:30～15:00
場 所 : ZOOMによるオンライン会議及びHug
参加者 : 現地支援チーム 20名

内 容 : 南信州地域現地支援チーム会議

- (1) 3年間の総括
- (2) 4年目からの目指す姿
- (3) 事業継続への支援について
- (4) 意見交換
- (5) その他

(3年間の総括)

成果

・学習サポートについて、助成金受託前は「個別サポート」のみで10人程度をサポートしていたが、多様なニーズに応じて、「宿題サポート」、「個別サポート」、「フリースクール」の3つに分けたことで、登録数

が現在は47人まで増え、運営費の大きな柱となっている。

- ・それに伴い、学習ボランティアや調理ボランティアの人数も現在は22名に増え、共通理解をもって子どもたちと接していただき、地域の温かい繋がりに感謝している。
- ・特に3年目で新規事業として始めた「フリースクール」では、現在12名の小中学生の登録があり、利用者が増え続けている。2年間の経緯もあり、教育委員会や小中学校ともスムーズに連携がとれ、町公用車での送迎だけでなく、校長先生が授業に来てくださったり、学習に必要な用具を学校からお借りできたり、スタッフ会議に教育委員会や先生方も一緒に参加して頂いたりなど、官民学連携により「町の子どものために」と、快く対応して頂け、大変ありがたい。
- ・こどもカフェ（こども食堂）では、食材寄付のスポンサー企業が増え、定期的にお肉やヨーグルト、お米などを頂け、食品ロスの取り組みにも繋がっている。その外にも、南信州地域振興局を通してたくさんの企業や個人の方など、協力先は年々増え続けている。
- ・昼間のカフェでは、町社会福祉協議会や学校、企業などからのお弁当や折の受注が増えており、学習サポートの収益と共に運営費の柱となっている。

できなかったこと

- ・新型コロナウイルスの影響により、こどもカフェ（こども食堂）を中止した期間もあり、利用者数が大きく減ってしまった。
- ・コロナ禍により、活動の理念でもある「多世代交流」の機会が失われ、計画していた事業ができず様々な葛藤があった。
- ・安定した収入源がまだ確立されていない。
- ・ICT担当の人材の確保。

■その他 情報提供

- ・沖縄県と長野県の「第三の居場所」を利用する子ども同士の交流
沖縄県うるま市と計画、申請予定
- ・コロナ対策他拠点の状況提供、相談
- ・eラーニング 研修のご案内
- ・ファンドレイジング研修計画

■中間支援組織（長野県みらい基金）としての課題

■下半期の予定・目標

- ・県、市町等行政支援への打診、提案を引き続き行う。
- ・「子ども第三の居場所」を地域で支える、地域支援マンスリーサポートの推進
チラシを1,000部印刷、市町の窓口や企業へ配布 1拠点100口目標
- ・国の助成金、補助金等の調査、研究
- ・3月全体で3年間の報告会・今後について

■2021年度 みらい基金としての成果

- ・沖縄研修で今後の交流の基盤ができた。
- ・ファンドレイジング研修10/11実施
- ・チャットワークへ登録完了 研修等これからも繋がっていく

■2022年度に向けて みらい基金としての課題

- ・引き続き、各拠点マンスリーサポート寄付の推進
- ・沖縄研修がコロナ禍で中止になった為、次年度に開催予定。

以上